

活動報告 博物館教室〈楽しいしぼり染め〉(4)

中級―「藍の絞り染めで浴衣を作る」

宮 本 康 男*

はじめに

本県には、鹿角紫根茜染、横手絞、浅舞絞などの優れた絞り染めの文化がある。

当館では、これらの秋田県内で行われた伝統的絞り染めの文化と技術の掘り起こしと伝承を目指して、平成5年以来絞り染めの教室を実施してきた。ここでは平成13年度に実施した博物館教室〈楽しいしぼり染め〉―中級の活動と成果を、次に示す項目に沿って作品を中心に報告する。

1) 立涌絞

立涌の意匠と技術のバリエーション

2) 柵絞

柵絞の意匠と技術のバリエーション

3) 鹿子、帽子絞

横手絞風の意匠に関する工夫と染め方

4) たたみ絞

畳み絞の文様の新傾向と染め方

5) 柳絞

柳絞りをういた意匠の工夫

6) 三浦絞

三浦絞りをういた意匠の工夫

7) 複合的な絞り

さまざまな絞りを複合した意匠の工夫

8) その他のさまざまな意匠

1 これまでの経緯

これまで、博物館教室〈楽しいしぼり染め〉については秋田県立博物館研究報告第23号、24号、25号、26号にその活動と作品を報告してきたが、中級の活動としては今回が4回目の報告となる。

12年度まで、〈楽しいしぼり染め〉は入門講座の初級と、経験者を対象とした中級、それに藍の生葉染め講座を併せた構成で行ってきた。12年度の初級講座の参加者が54名に達したことから、

13年度は中級参加希望者の数が大幅に増加することが予想された。12年度の中級参加者ですら既に50名を越えており、増加する参加希望者の受け入れのためには運営形態を見直す必要があった。

そこで、13年度は中級に立涌絞、柵絞、三浦絞、柳絞、鹿子と帽子絞、たたみ絞のそれぞれの技法ごとのコースと、複合技術や自主テーマを中心とする研究コースの7コースを設けた。技法ごとのコースは6コース各20名、研究コースは40名までとし、中級としては最大160名まで受け入れ可能な態勢とした。

2 13年度の活動から

本年度、この中級のワークショップでは、延べ139人の人々が絞り染めの製作を行った。

筆者らはこの4年間、着尺地を絞って染めることを通して本県に伝えられる絞り染めの意匠の構成理念や技術を考察してきた。

13年度の活動において、筆者らはこれまでの活動の延長上にある古い意匠の復元製作的な活動とともに、本県に伝えられる絞り染めの意匠の構成理念や技術をもとに新しい意匠を染める試みにも意欲をもって取り組んだ。

博物館によって新しく提案された意匠の絞りに取り組む人々、博物館の提案とは別に新しい意匠を提案し製作に取り組む人々、既にある意匠の絞りの技を身につけようとする人々など、様々なスタイルの取り組みがあった。限られた紙面で一つ一つの製作の実際について紹介する事はできないが、新しい取り組みについては製作の要点を付して紹介する。既報の事項については、この号だけでは簡略にすぎる部分も多々あるので、本館研究報告第23号、24号、25号、26号を参照していただければ幸いである。

*秋田県立博物館

3 13年度の試みと成果

1) 立涌紋

立涌の意匠と技術のバリエーション

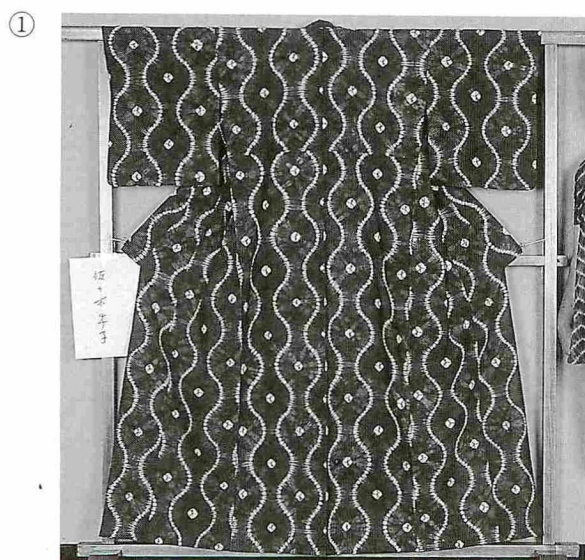
鹿角風の立涌紋は布幅を二つに折って二枚合わせで縫って絞ることや、立涌模様の中に小さな巻き上げ絞りを作るのが特徴である。この基本を遵守してバリエーションを作った。

変化を持たせるためには、立涌の波線の曲率を変える、立涌の波の周期を長くしたり短くしたりする、巻き上げ絞りの大きさをかえる、巻き上げ絞りの数を増やす、縫い絞りの針目の大きさを変えるなどの工夫をした。立涌紋の技法の詳細については本館研究報告22号を参照されたい。

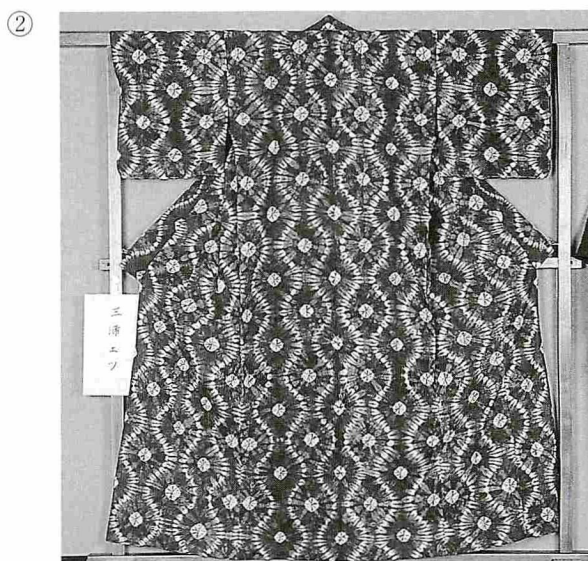
作 例

- ①丸みの強い立涌、針目は中 佐々木チナ子
- ②丸みの強い立涌、針目は大 三浦エツ
- ③丸みの少ない立涌、針目小 鈴木栄子
- ④丸みの少ない立涌、針目中 菅沼鳩子
- ⑤周期の長い立涌、針目小 大橋篤子
- ⑥周期の長い立涌、針目中、巻き上げ絞り3つ
大島志保子
- ⑦周期の長い立涌、針目中、巻き上げ絞り3つ、
1つだけ巻き上げを解いて浅黄を染めている
嵯峨エイ子

針目は小(7~8mm)、中(9~10mm)、大(12~15mm)で、大きい方が模様が派手になっている。



佐々木チナ子／天王町



三浦エツ／山本町



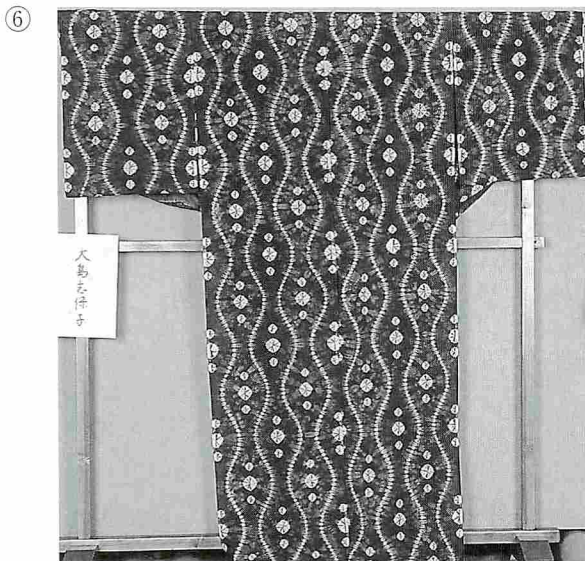
鈴木栄子／秋田市



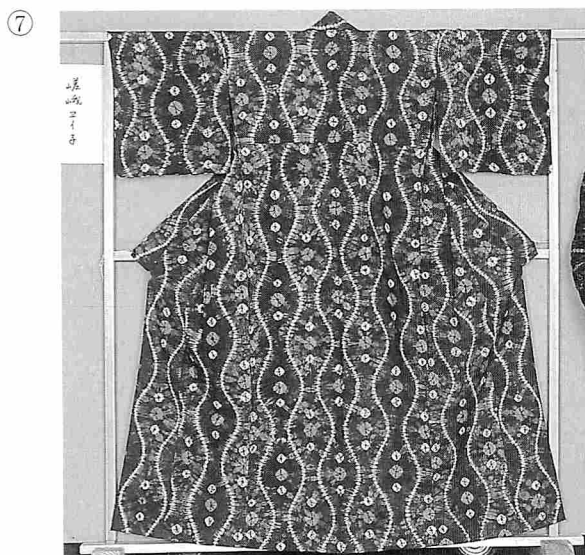
菅沼鳩子／秋田市



大橋篤子／大曲市



大島志保子／秋田市



嵯峨エイ子／秋田市

2) 柵紋

柵紋の意匠と技術のバリエーション

鹿角風の柵紋は、布幅を二つに折って二枚合わせて縫って絞ることが特徴である。そのため、文様の大きさは布幅で決まってしまう。しかし、針目の幅を変えたり、巻き上げの幅を変えることにより文様のイメージは大きく変わってくる。また、柵の中を巻き上げることにより、白場の勝った派手目の意匠となる。

松川菱の意匠や浅舞風の菱文様の絞りも柵と同様の絞りで染めることが出来る。

作 例

①鹿角風の大柵紋の針目を大きくした例（針目 2 cm）。針目が大きいので、縫いを引き締めると布はひだ状に規則的に畳まれる。縫い締め線から上 2 カ所を縛って柵の白い部分の幅をだしているため、白に程良く藍が混じる。佐々木とも

②鹿角風の大柵紋の針目を大きくした例（針目 2 cm）。縫い締めは①と同様であるが、縫い締め線から上を巻き上げて柵の白い部分の幅をだしているため、藍があまり入らず白が強くなっている。柵の中央部分を染め重ねにより濃くして変化を持たせている。北埜和子

③大柵紋の白場を大きくとって、藍色の小さい柵を際立たせた作例 伊藤まり子

④大柵紋を染めるときに先端部を重ね染めして藍の深さを出している。更に巻き上げを解いてから浅黄を染めて、藍の色の多様性を見せた作例。

北埜和子

⑤柵の中央部に巻き上げ絞りを入れて、文様を華やかにした作例。縫い締め線から上 2 カ所を縛って柵の白い部分の幅をだしている。（針目 2 cm）

白根節子

⑥ベーシックな鹿角風の柵紋。針目 7～8 mm。針目がやや小さいので、縫いを引き締めるときひだが平行にならず指交状になる。このため、ひだになった布を括った部分と縫い締めた部分との間に藍が強くなり、縫い締め線がはっきり出た意匠になっている。 畠山セツ

⑦小柵紋で、柵一つ一つで糸を止めず、つなげて絞った作例。針目 2 cm。針目が大きいので、縫いを引き締めると布はひだ状に規則的に畳まれる。

縫い締め線から上2カ所を縛って柵の白い部分の幅をだし、更に柵の中央部を巻き上げている。つなげて絞ることにより、柵と柵との間はひだになり、藍の浸透が抑制されるため浅黄色の縞模様ができる。 松尾あみ子

⑧小柵絞で中央の巻き上げ絞りが入っていない。絞り方の違いで⑦よりは深く藍が入っている。

谷美根子

⑨松川菱に円模様の浴衣

柵絞りと同様に布幅を二つに折って二枚合わせで絞る。きれいな円を表すため、半円を縫って引き締めてから巻き上げている。高橋キサ

⑩菱文様の浴衣地

柵絞りと同様に布幅を二つに折って二枚合わせで絞る。きれいな四角形の円を表すため、半円を縫って引き締めてから巻き上げている。

加藤豊子

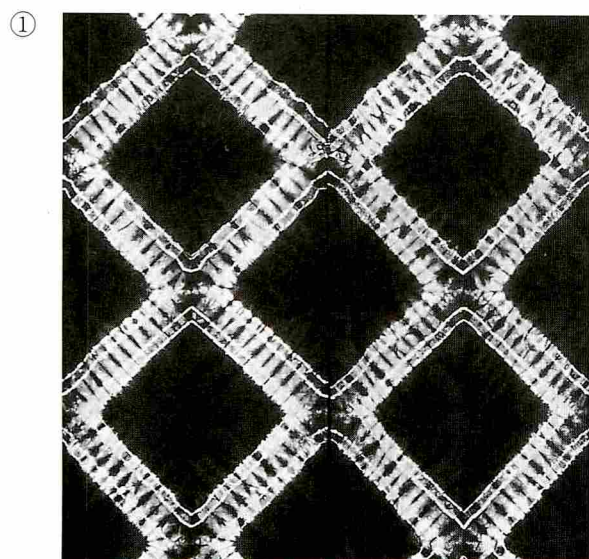
⑪二枚合わせで絞った円模様の浴衣

円と柵では、意匠としては大きく異なるが、絞りの技術的な方法論は小柵絞と変わるところがない。折れた直線を膨らませて半円に変えて縫えば円になる。大友ひろみ。

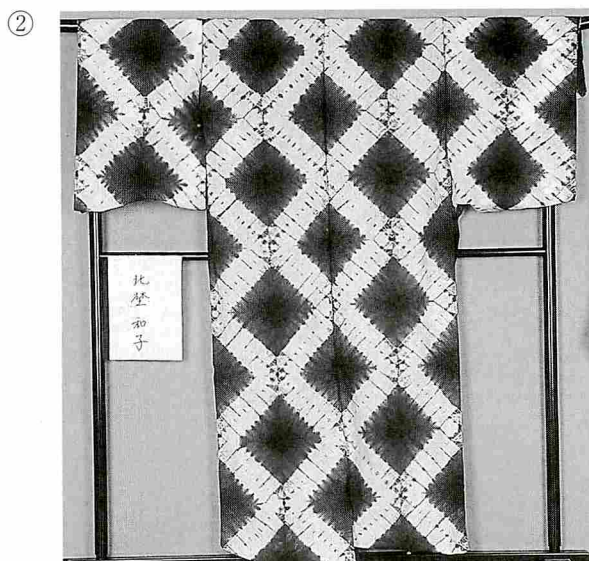
⑫青海波文様の浴衣地

布幅を八つに屏風畳みにして、八枚重ねで青海波を縫って染めたもの。本来は返し縫いをしたものであるが、この作品はミシンで縫っている。

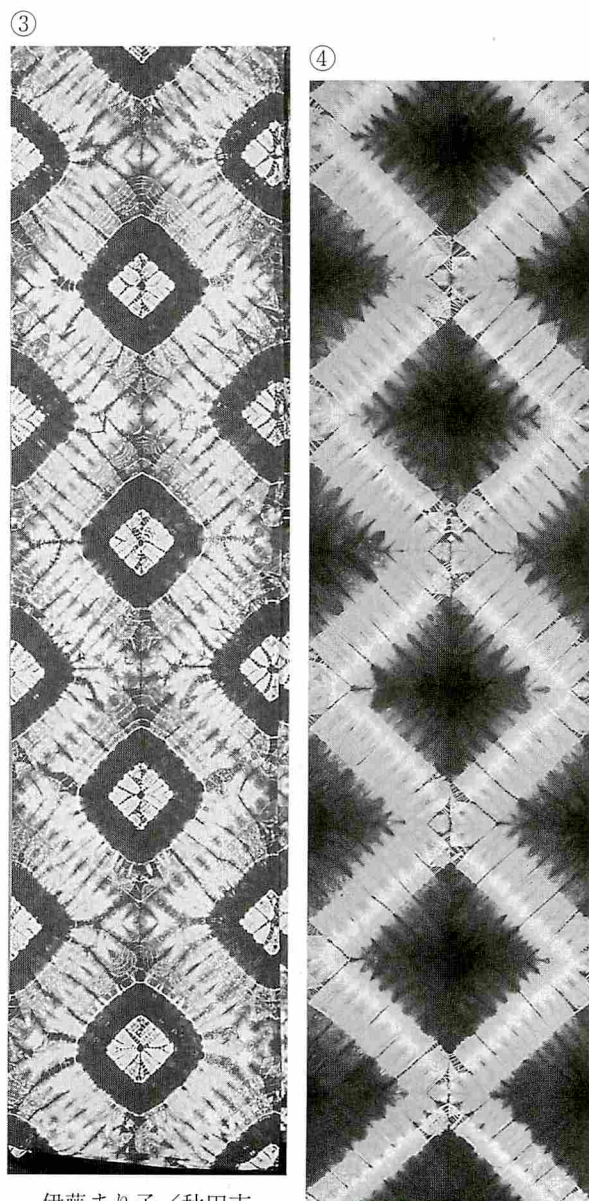
布谷保子



佐々木とも／秋田市

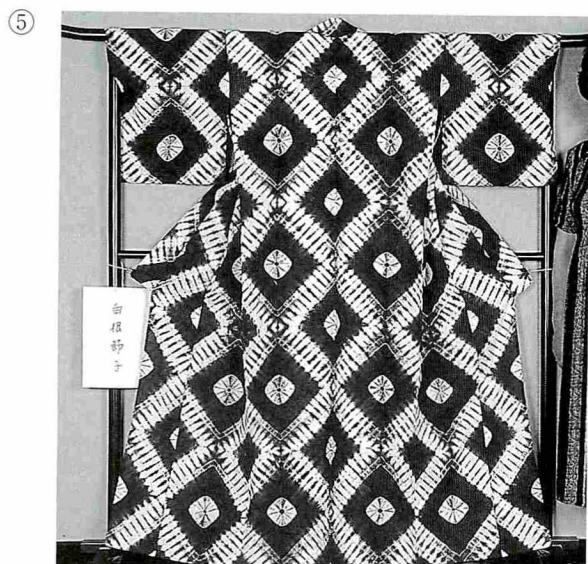


北埜和子／秋田市

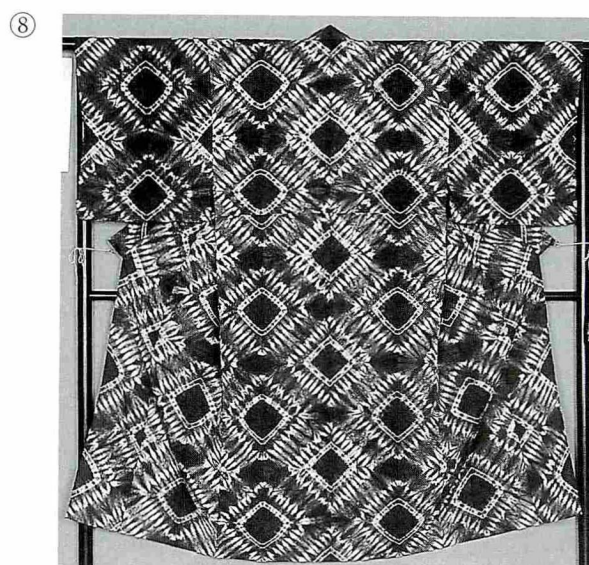


伊藤まり子／秋田市

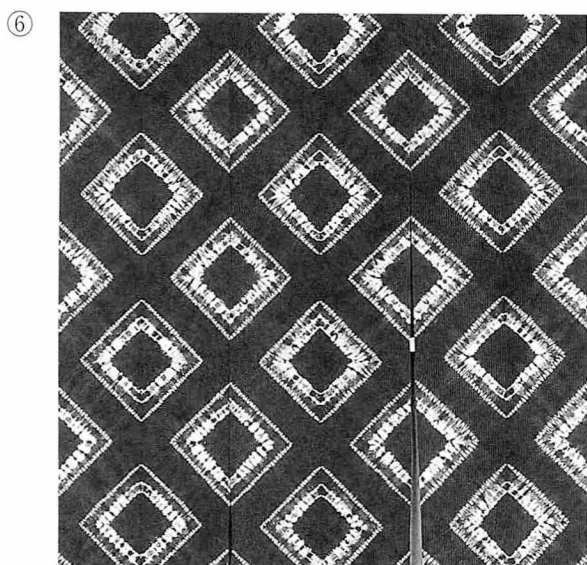
北埜和子／秋田市



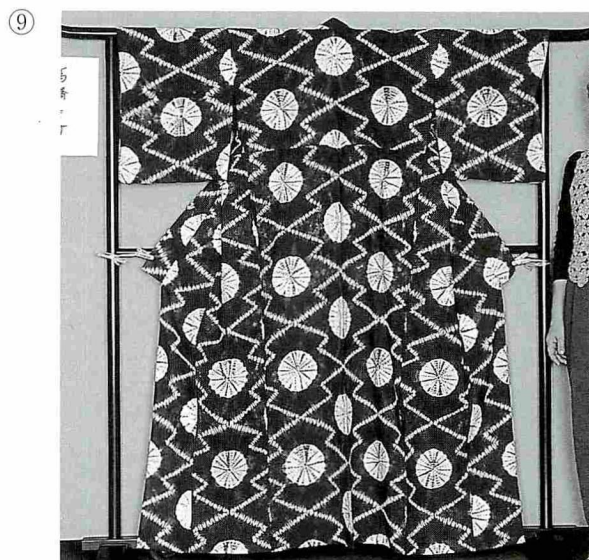
白根節子／田代町



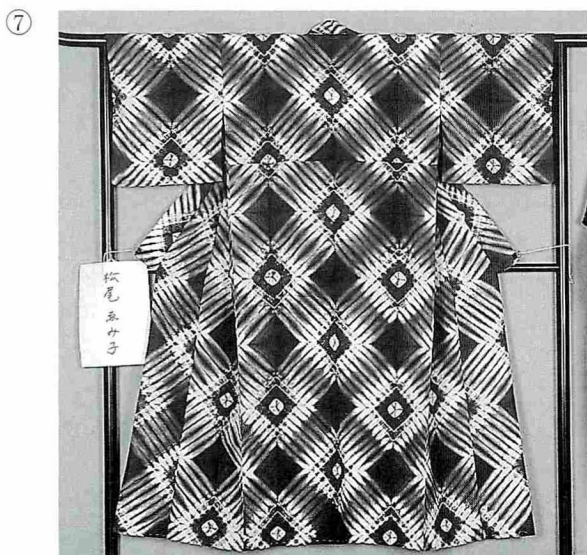
谷美根子／若美町



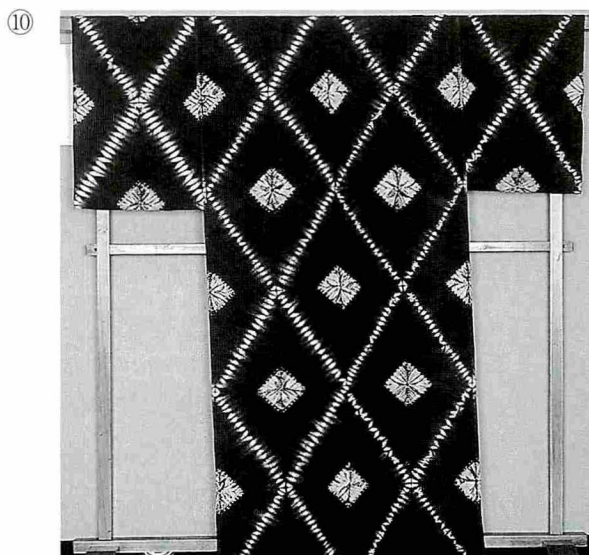
畠山セツ／八郎湯町



高橋キサ／千畑町



松尾ゑみ子／秋田市



加藤豊子／秋田市



大友ひろみ／秋田市

しく叩いても糸が解けたり、切れたりしないように、しっかりと絞っておく必要がある。

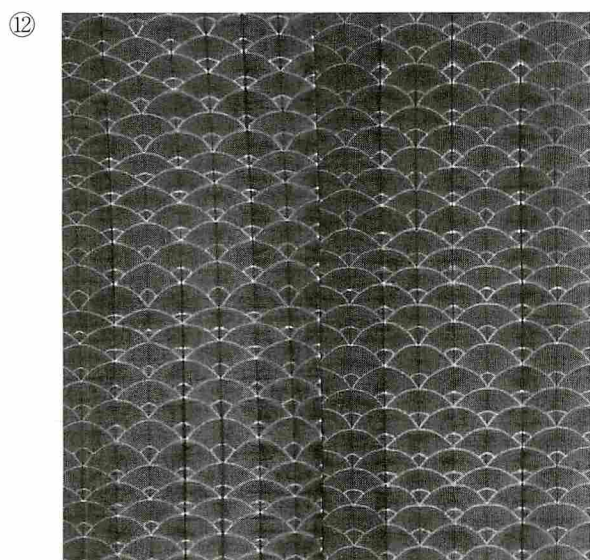
作 例

●従来から染められてきた意匠

- ①蝶花文様の浴衣地 小幡昌子
- ②蝶花文様の浴衣地 川口則子
- ③蝶花文様の浴衣地 長谷部良子

●新規に工夫された意匠

- ④垣根に梅文様の浴衣 横山和子
- ⑤垣根に梅文様の浴衣地 飯塚芳子
- ⑥流水に紅葉文様の浴衣 高橋キサ
- ⑦流水に蝶花文様の浴衣 大友ひろみ
- ⑧波に千鳥文様の浴衣地 加賀郁子



布谷保子／大館市

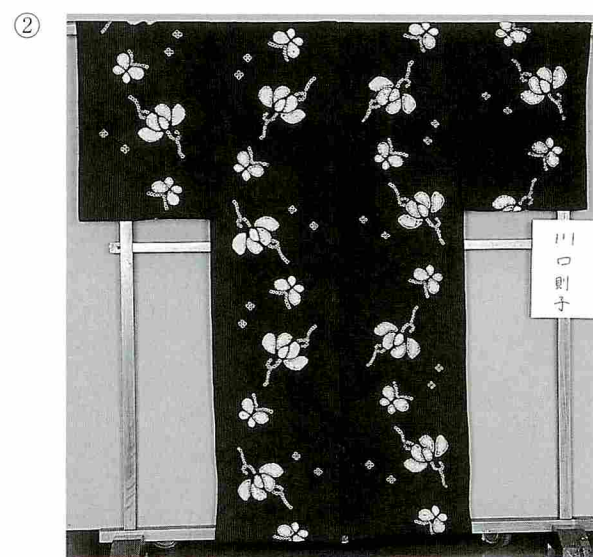


小幡昌子／秋田市

3) 鹿ノ子、帽子絞

横手絞は鹿子絞と帽子絞を用いた繰り返し模様の意匠が特徴で、花や蝶、流水文様がモチーフとなるものが多い。従来の横手絞りの意匠の作例に加えて、新しく工夫した横手風の作例を紹介する。

この絞りでは、地の部分も込み入ったひだになっているので、不用意に染めると地に斑ができる。発色させるときによく叩いてひだの中までよく空気を送り込んで均一に発色させることにより、斑の発生を抑えている。小さい布であれば一人で斑をつくらないように発色させることができるが、着尺になると一人では無理である。少なくとも3、4人は人手が欲しいところである。また、少々激



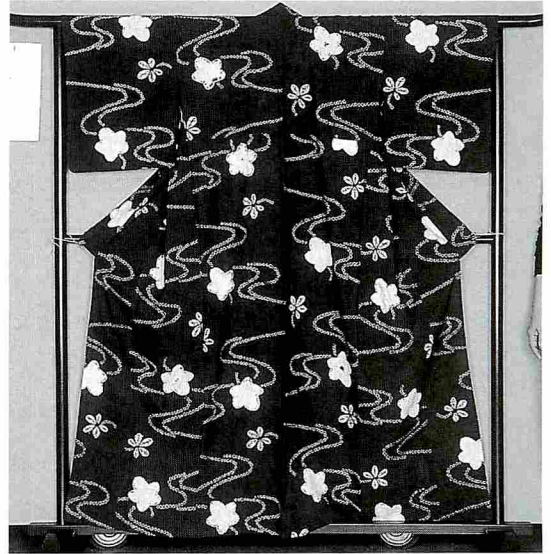
川口則子／秋田市

③



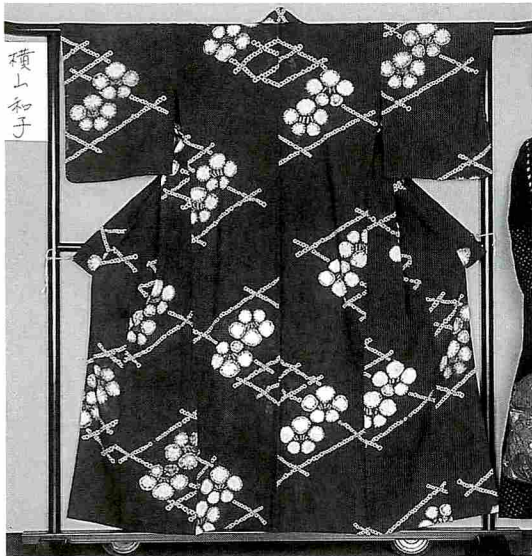
長谷部良子／秋田市

⑥



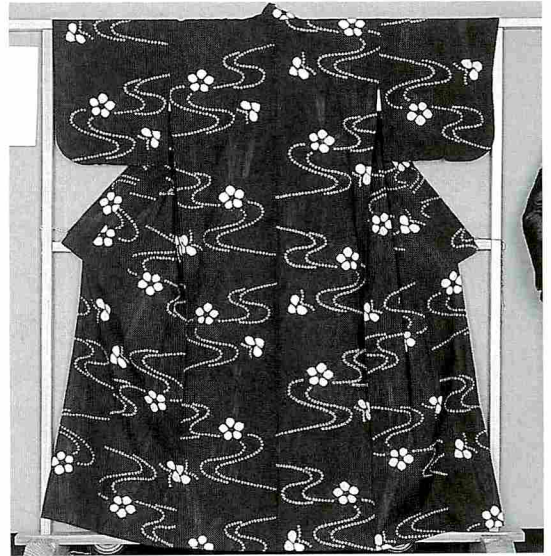
高橋キサ／千畑町

④



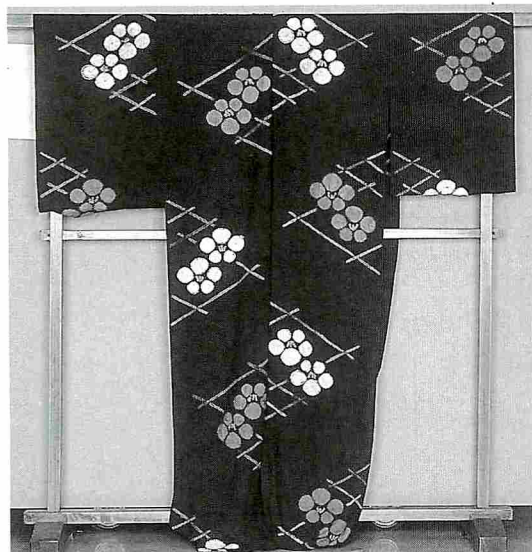
横山和子／秋田市

⑦



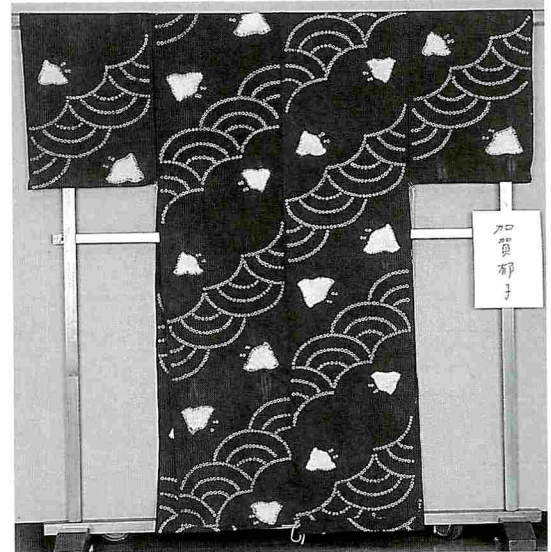
大友ひろみ／秋田市

⑤



飯塚芳子／湯沢市

⑧



加賀郁子／秋田市

4) 畳み絞

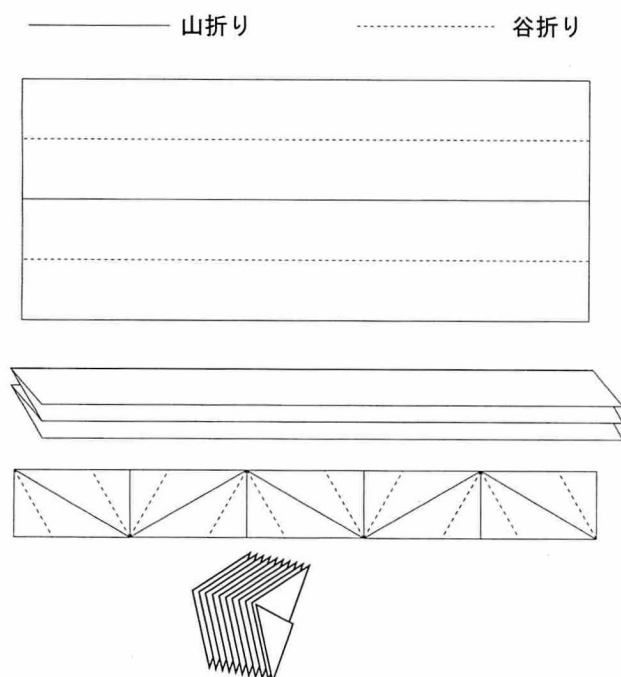
畳み絞の文様の新傾向と染め方における問題点

従来の畳み絞りの製品では麻の葉文様や雪花文様が一般的な文様であったが、このワークショップでは昨年までに格子や亀甲のイメージを持つ文様もあわせて染められるようになっていた。そして本年度はこれにあわせて、麻の葉文様から派生した白抜き六弁花文様や、正三角形の畳みで鱗文様のバリエーションが染められるようになった。ここではその概略を報告するとともに、畳み一板締め染め方について、板締めの強弱や、染液を浸透させた後に残液を搾るか搾らないかの影響についての所見を二、三記しておく。

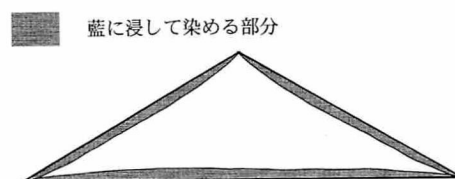
(1) 麻の葉の畳み方で染めた白抜き六弁花文様

図に示すように麻の葉の畳み方でできる二等辺三角形の三辺を均等に染めると麻の葉文様になるが、頂点を下にして底辺ぎりぎりまで染液に浸して、底辺を染め残すと白抜き六弁花文様になる。また、この白抜き六弁花を染めるに先立って、底辺側の2頂点を染めておくと、花心の葉のような文様に染め上がる。板締りを強くして藍の浸透を抑制すると白抜きの花弁の幅が広くなり鉄線の花のようなになるが、板締りを甘くして藍を強く浸透させると白抜きの花弁の幅が狭くなってコスモスの花のような文様になる。

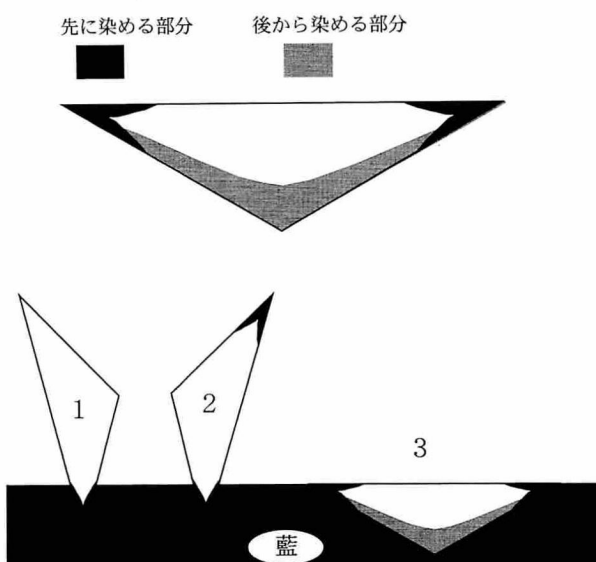
麻の葉の畳み方



麻の葉の染め方



白抜き六弁化の染め方



作 例

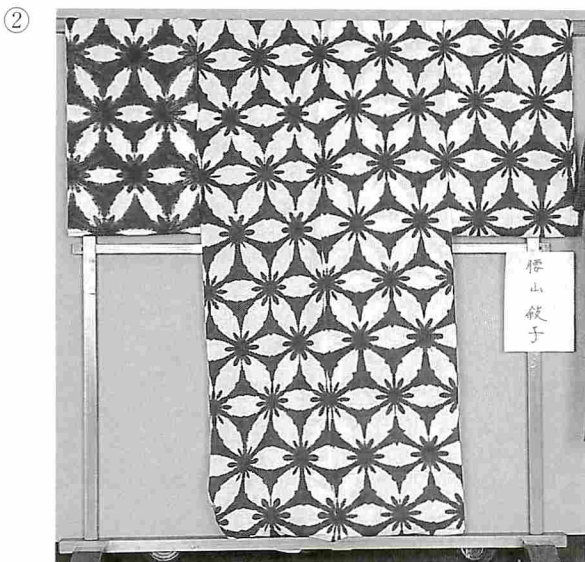
- ①板締りを強くして染めた例
布幅4つ折り 高野達子
- ②板締りを甘くして染めた例
布幅4つ折り 腰山敍子
- ③板締りを強くして染めた例
布幅6つ折り 武田芳子
- ④板締りを甘くして染めた例
布幅6つ折り 山田由紀
- ⑤頂点をごく浅く染め、底辺側の頂点二つを深く染めた例
布幅4つ折り。開いた後に全体を浅黄染め
夏井由紀
- ⑥底辺側の頂点を2回染めた例
奈良千鶴子



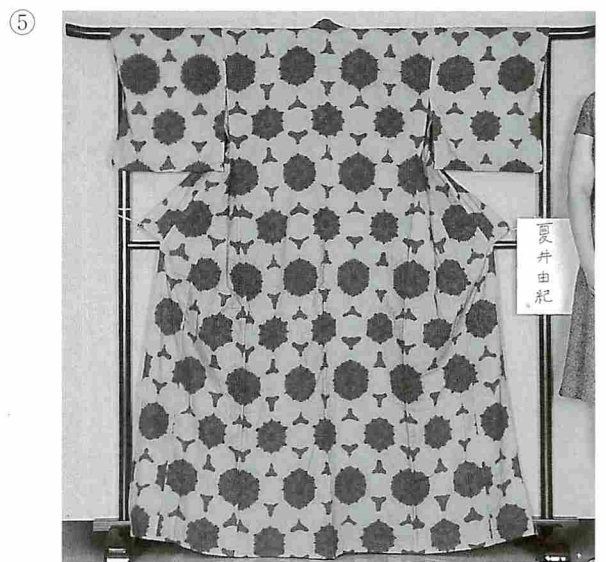
高野達子／若美町



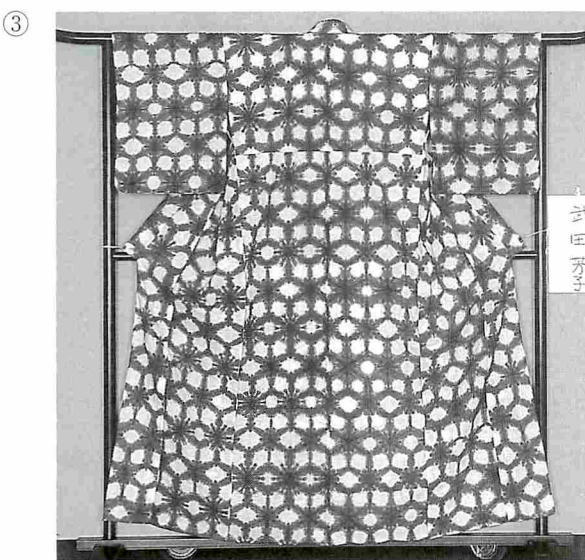
山田由紀／男鹿市



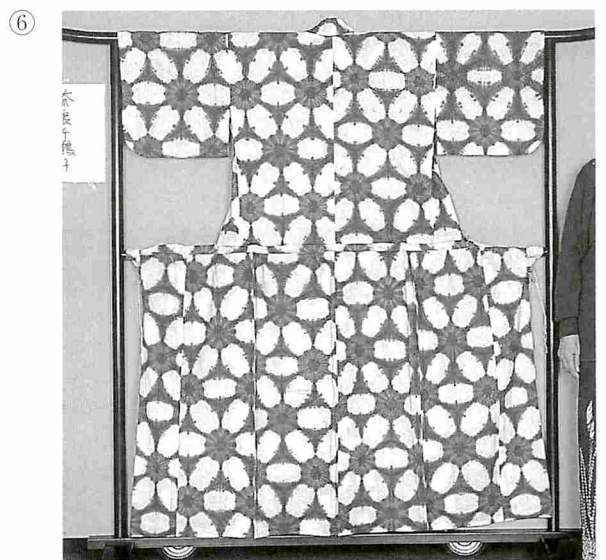
腰山紋子／能代市



夏井由紀／男鹿市



武田芳子／秋田市

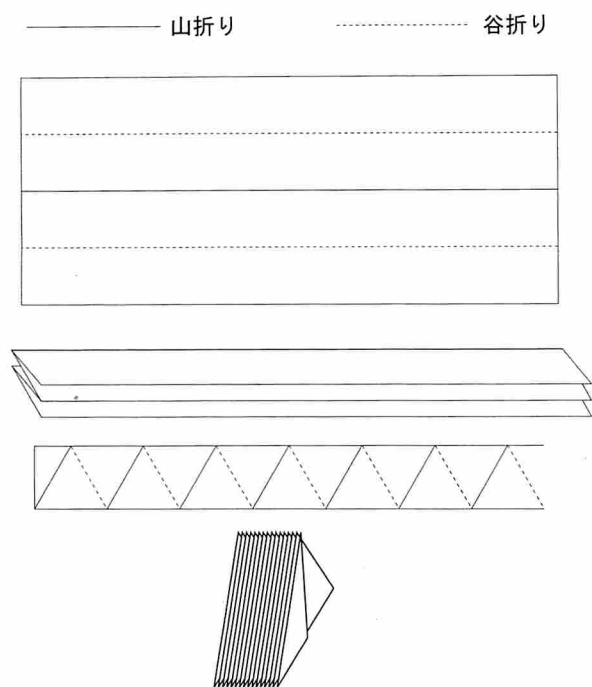


奈良千鶴子／秋田市

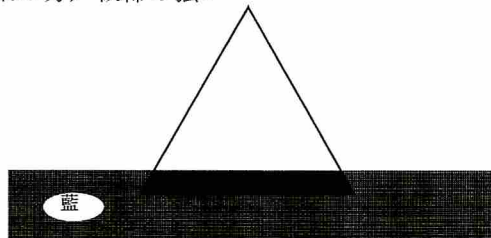
(2)正三角形の畳み方で染める鱗模様のバリエーション

図のように正三角形に畳んで一つの辺だけを浅く藍に浸して染めると亀甲文様になる。また、頂点を浸して染めると、いわゆる雪花文様になる。しかし、藍が深くはいるように板締めを甘くして正三角形の半分だけを浸して染めると鱗文様ができる。先に頂点を染めてから、この方法で染めたり、板締めの強さを変えることで様々なバリエーションができる。

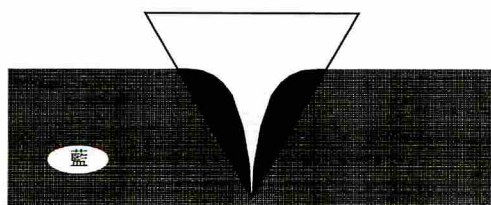
正三角形の畳み方



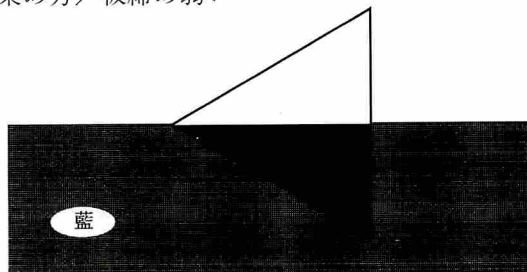
亀甲の染め方／板締め強い



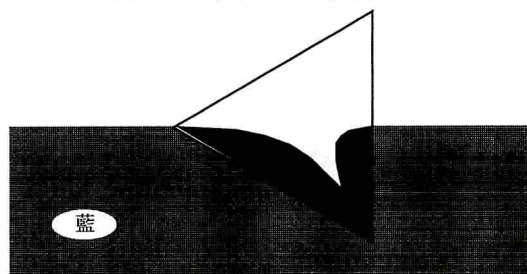
雪花の染め方／板締め中程度



鱗の染め方／板締め弱い

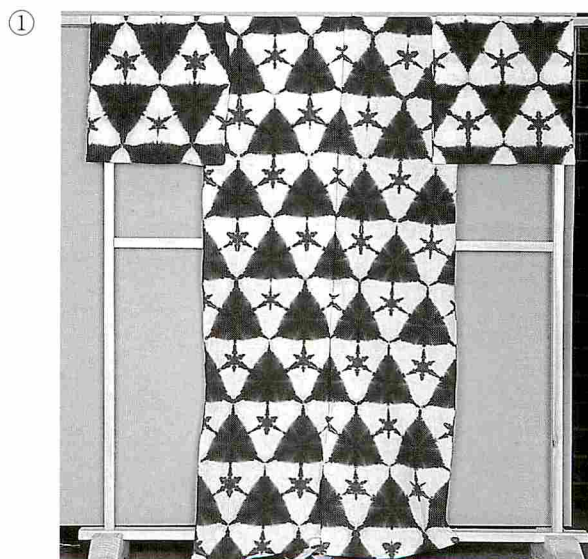


板締めを強くした場合の藍の入り方



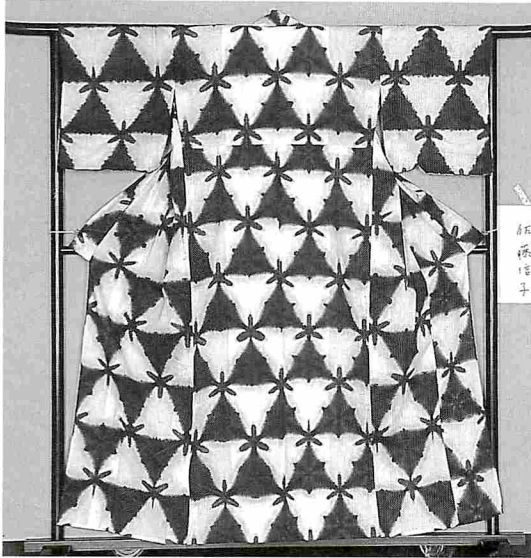
作 例

- ①一つの頂点を浅く染め、その反対側半分を深く染めた例／布幅4つ折り 草皆宏子
- ②正三角形の一つの頂点を浅く染め、その頂点を含む半分を深く染めた例／布幅4つ折り 佐藤信子
- ③正三角形の一つの頂点を浅く染め、その頂点を含む半分を深く染めた例／布幅6つ折り コース 佐藤信子
- ④正三角形の一つの頂点を浅く染め、その頂点を含む半分を浅く染めた例／布幅4つ折り／後で全体を浅黄染め 腰山敍子



草皆宏子／五城目町

②



佐藤信子／秋田市

(3) 四角形に畳んで染める模様のバリエーション

作 例

① 正方形に畳んで、四辺を浅く染めた例

幅4つ折り。開いた後に全体を浅黄染め

佐藤久子

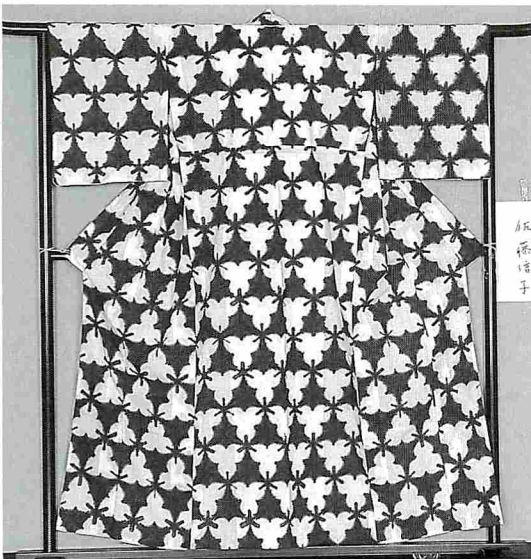
② 長方形に畳み、半分を板締めして染めた例

木曾明子

③ 長方形に畳むが、2つおきに長くして、短い長方形に合わせて板締めして染めた例

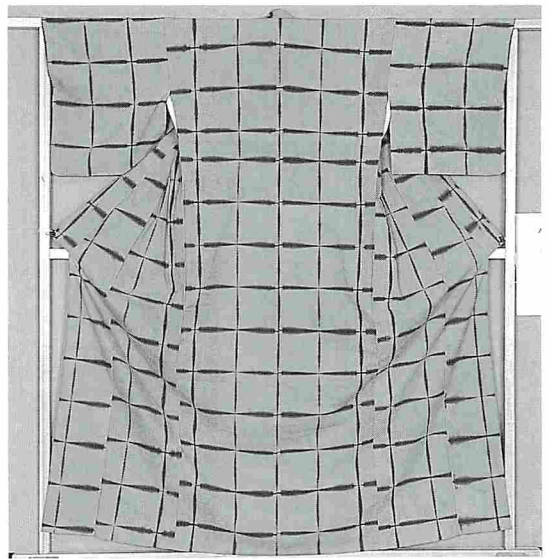
藤原純子

③



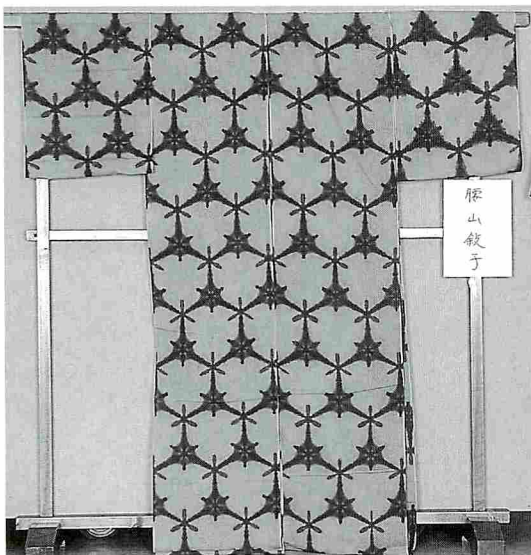
佐藤信子／秋田市

①



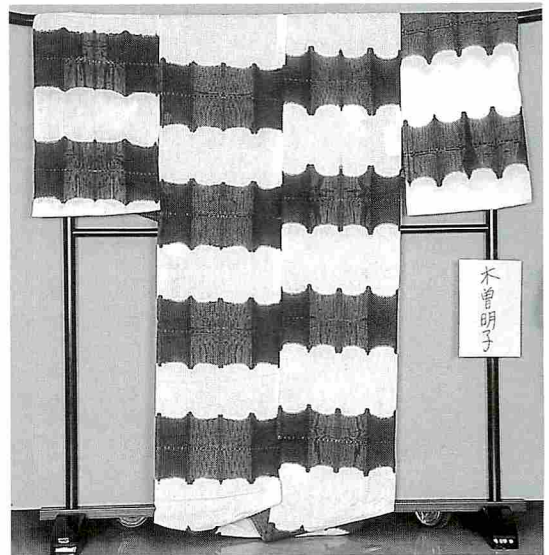
佐藤久子／秋田市

④



腰山敏子／能代市

②



木曾明子／秋田市



藤原純子／秋田市

(4) 畳み一板締め染め方について、板締めの強弱や、染液を浸透させた後に残液を搾るか搾らないかの影響についての所見

これまでにあげた畳み絞りの作例を見てわかるように、板締めが強くなるほど藍の浸透が弱く、辺は膨らみが少ない線に近いイメージで表現される。逆に、板締めが甘くなるほど辺は膨らみ、花卉のようなイメージとして表現される。更に極めて板締めに甘くすると、ほぼ藍に浸した形に近く藍が浸透する。鱗模様は板締めに極めて甘くして染めないとシャープな三角形が出来ない。少し板締めが強くなると、模様丸みが出てきて別のイメージになる。

板締めてして染めたものは、締めたまま発色させると斑ができるので、当館では藍に浸した直後に開いて発色させている。藍に浸した畳んだ布は立てて端から引き出していく。引き出した部分は下に置かず宙で水平に保持し、全部引き出して伸ばしてから布幅を開いて発色させる。

この時、板締めが甘いと、余剰の藍液が下に下がっていき、後から引き出される部分が前の部分より強く染まる（濃度も、面積も）。これを避けるため、藍に浸して染めた後に板締めの板を強く圧して余剰の藍液を搾り取った場合、二次的な藍のしみ込みにより、圧さないときとはかなり異なった模様になる。以下に残液を絞ってから開いて発色させた場合と搾らない場合の例を示す。

作 例

① 直角二等辺三角形に折った例

藍に浸した後に搾った場合。それぞれの辺から浸透してきた藍の境界がはっきりと現れている。

与良久子

② 直角二等辺三角形に折った例

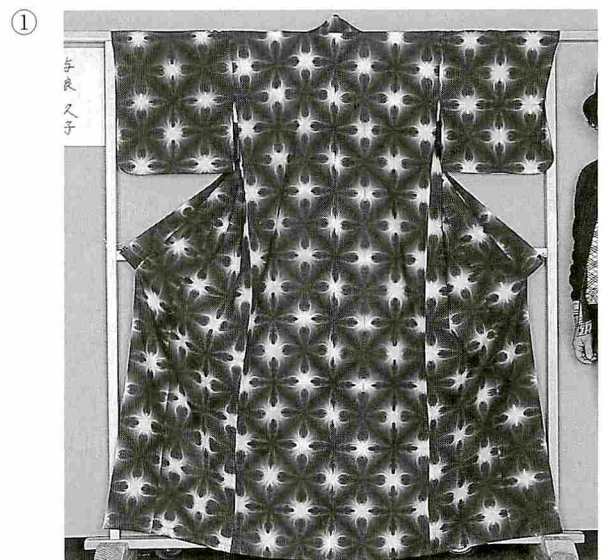
藍に浸した後に搾らなかった場合 添野美代子

③ 正三角形に折った例

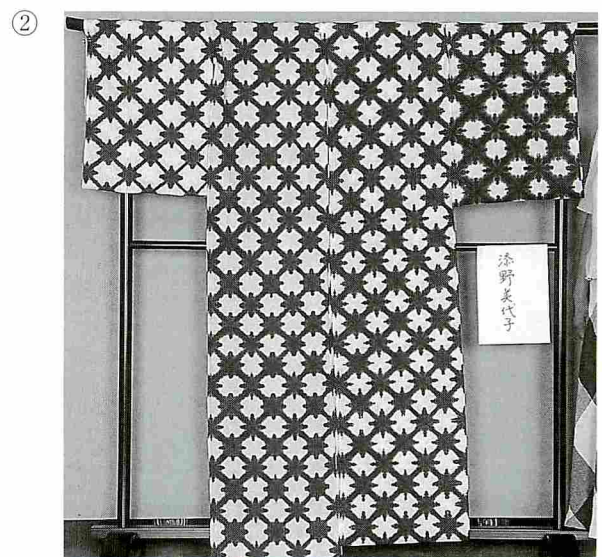
藍に浸した後に搾った場合 藤原純子

④ 正三角形に折った例

藍に浸した後に搾らなかった場合

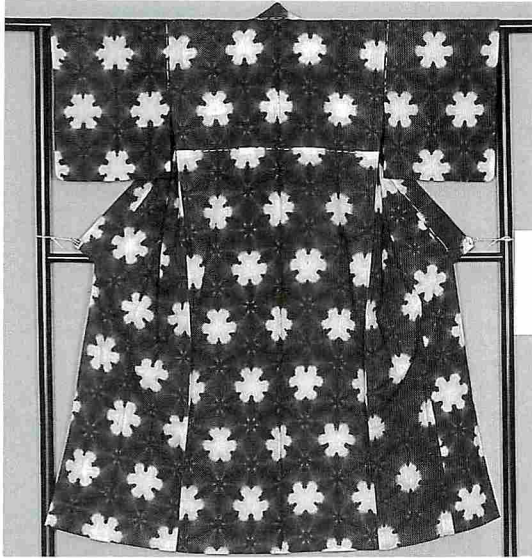


与良久子／井川町



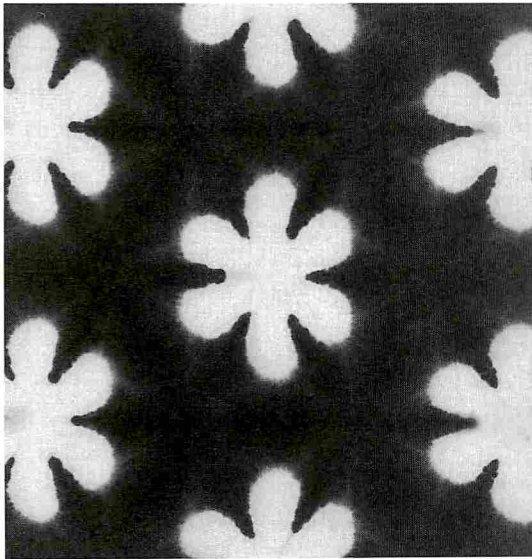
添野美代子／秋田市

③



藤原純子／秋田市

④



宮本康男／秋田市

5) 柳紋

柳紋をを用いた意匠の工夫

柳紋は、布の縦方向に適度にひだを取って糸で巻き締めて染めたものである。ひだは、あまり神経質にならずおおらかに適当にとるのが通常である。

柳紋の工夫のひとつは、柳葉模様の流れの方向に変化を持たせることである。模様を斜めにしたたり、放射状にしたたりしてバリエーションを生み出す。所々にモチーフを入れると放射状の模様になるが、モチーフが強くなると柳紋の模様は地模様になる。地模様としての柳紋はモチーフと地模様という関係だけでなく、地模様同士の切り替えによる段変わりの意匠に用いることも考えられる。

①基本的な柳紋の作例 藤谷正

②等間隔に斜めに粗い縫い締めを入れてひだを取って巻き上げた作例 明石昌子

③④布を螺旋状に耳同士を縫い合わせて筒状にしたものを絞って模様を斜めに出した作例

内藤テツ子 松尾えみ子

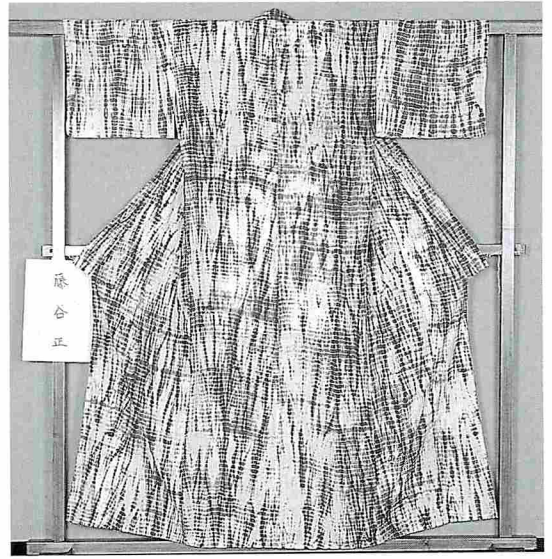
⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬モチーフで柳葉模様に変化を持たせた作例

黒川伊津 和賀芳子 藤谷正 菊地美保子 白根節子 添野美代子 内藤テツ子 山田薫 高橋恵子

⑭柳紋を用いた段変わりの意匠の作例

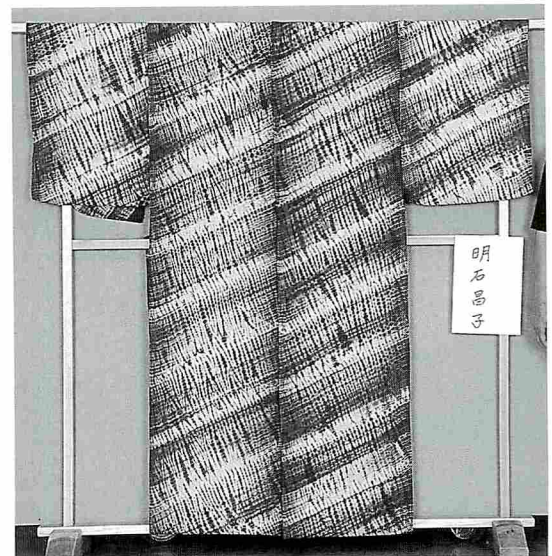
佐藤チオ子

①



藤谷正／大雄村

②



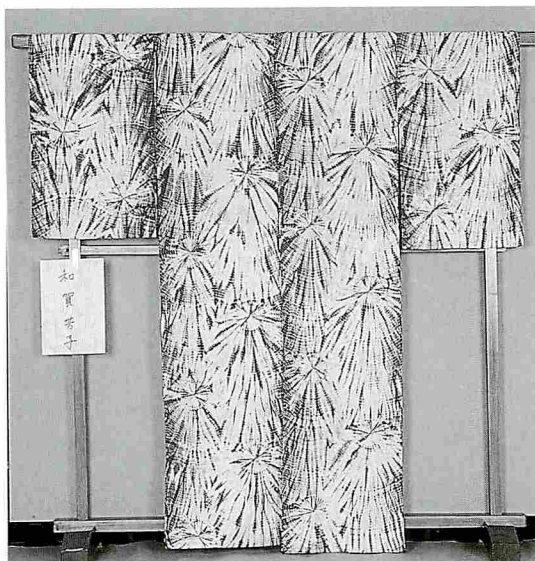
明石昌子／秋田市

③



内藤テツ子／山本町

⑥



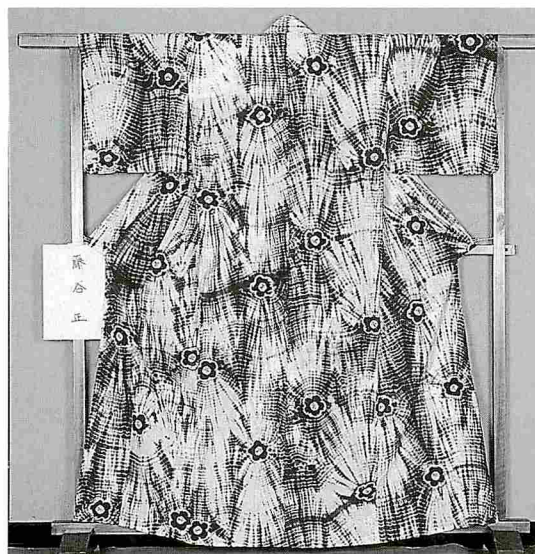
和賀芳子／秋田市

④



松尾ゑみ子／秋田市

⑦



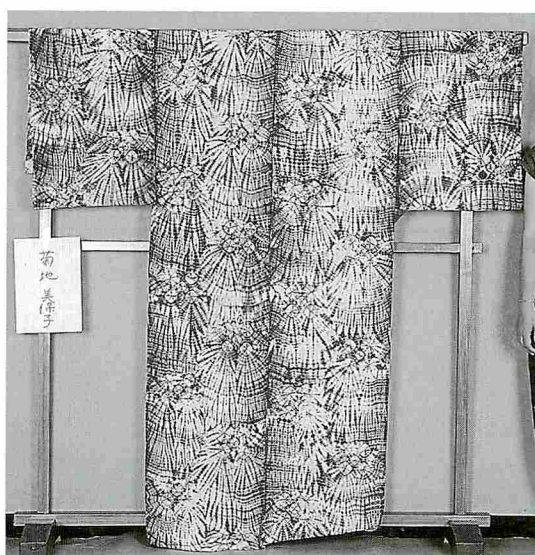
藤谷正／大雄村

⑤



黒川伊津／秋田市

⑧



菊地美保子／秋田市

⑨



白根節子／田代町

⑫



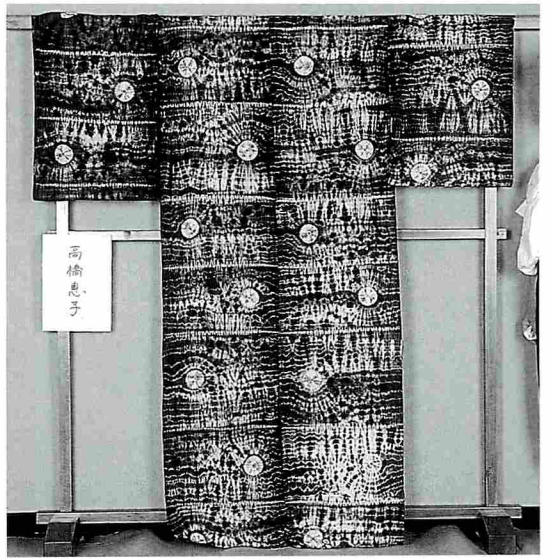
山田薫／能代市

⑩



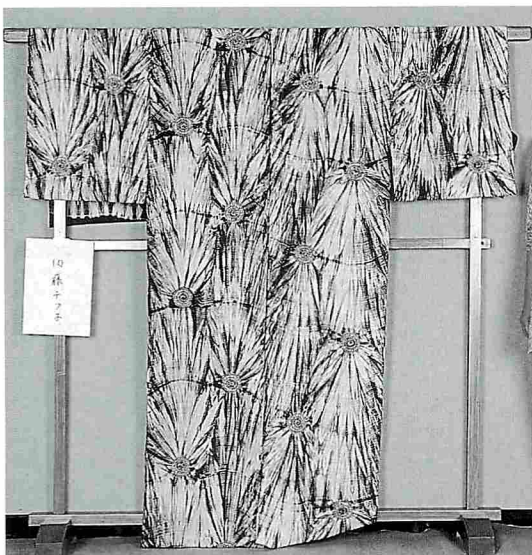
添野美代子／秋田市

⑬



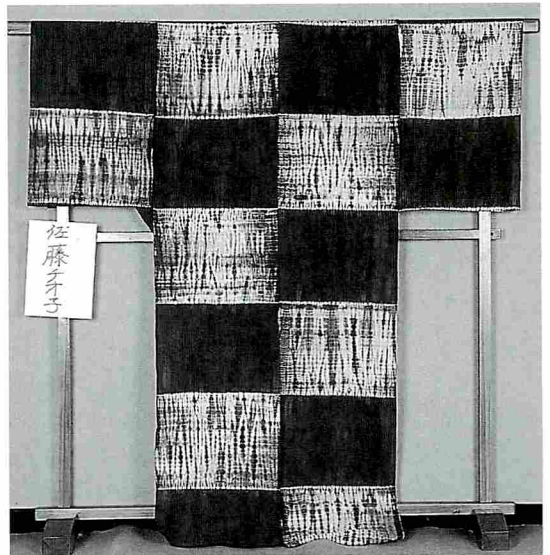
高橋恵子／八郎湯町

⑪



内藤テツ子／山本町

⑭



佐藤チオ子／秋田市

6) 三浦紋

三浦紋を用いた意匠の工夫

- ①横三浦／大粒 加藤豊子
- ②横三浦／中粒 伊藤紀子
- ③横三浦／小粒 武石昭子
- ④斜め三浦／大粒 成田栄子
- ⑤斜め三浦／中粒 高木愛子
- ⑥斜め三浦／小粒 高堂史子
- ⑦やたら三浦／ 与良久子
- ⑧変わり三浦紋 宮田孝子
- ⑨横斜め切り替え三浦紋 水戸瀬禮子
- ⑩斜め切り替え三浦紋 渡辺容子
- ⑪斜め切り替え三浦紋 藤原タカ

③



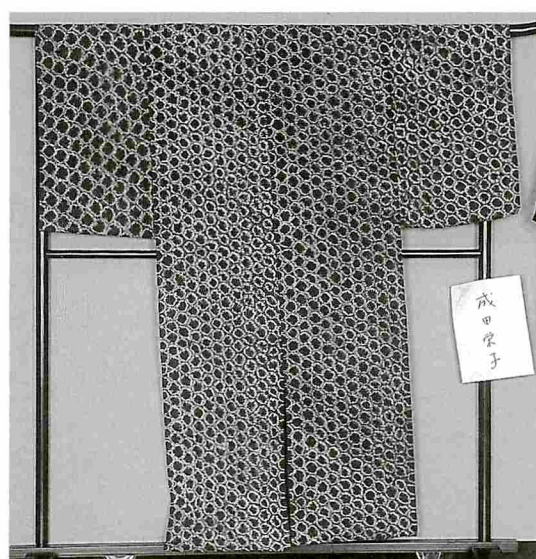
武石昭子／湯沢市

①



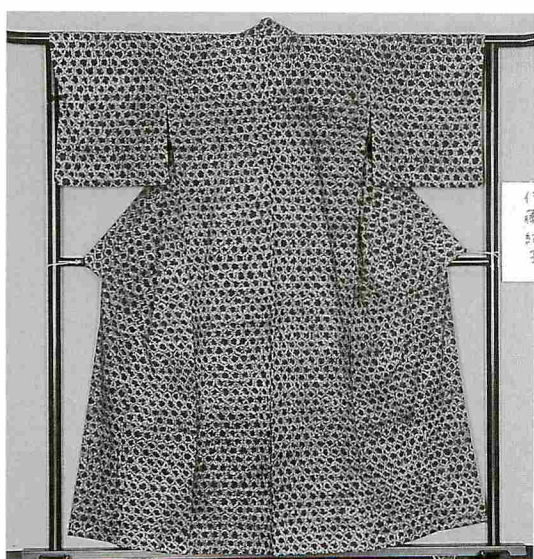
加藤豊子／秋田市

④



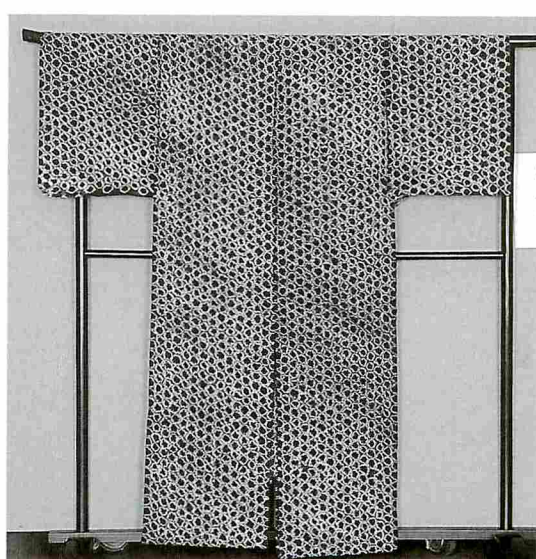
成田栄子／秋田市

②

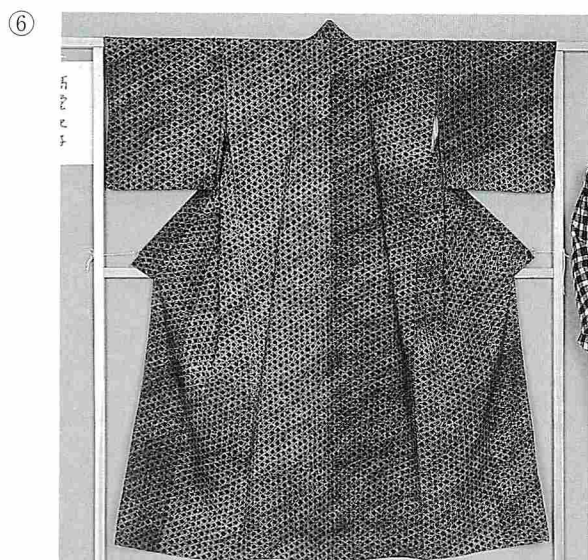


伊藤紀子／角館町

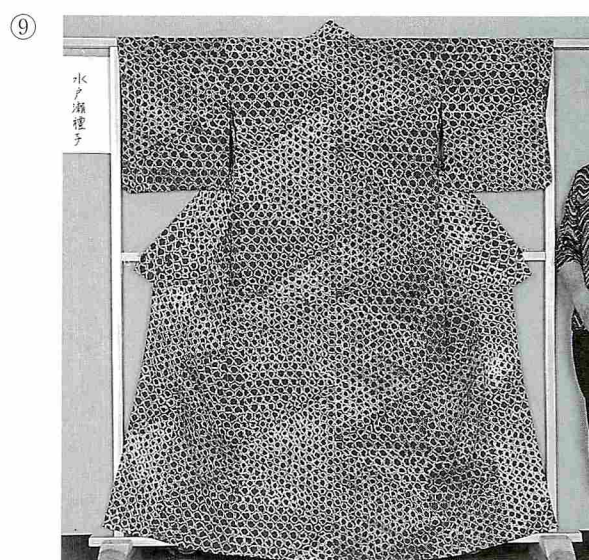
⑤



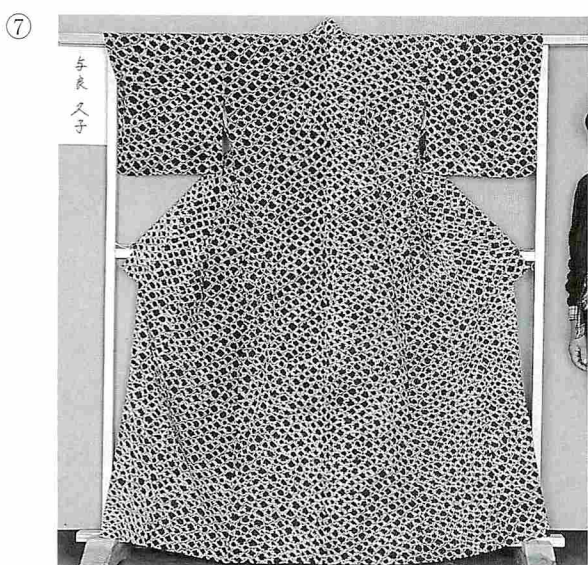
高木愛子／秋田市



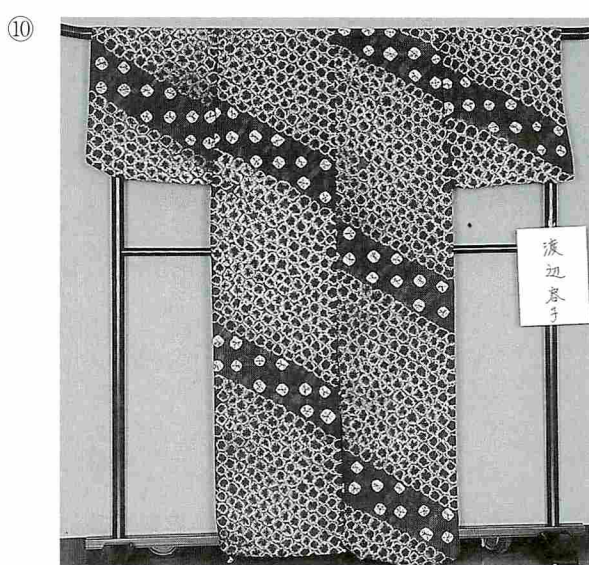
高堂史子／五城目町



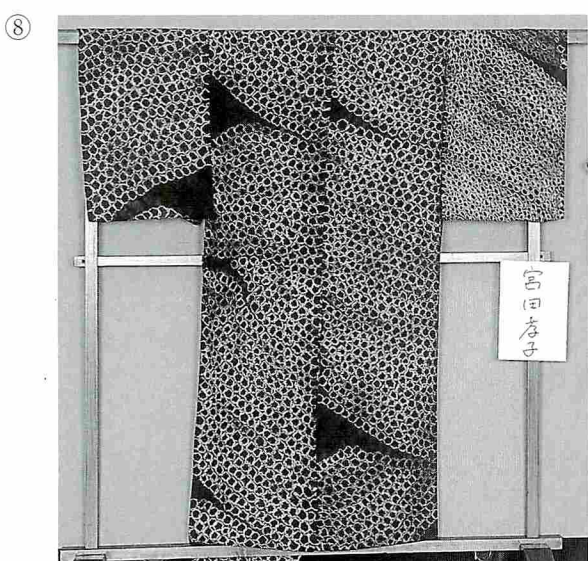
水戸瀬禮子／天王町



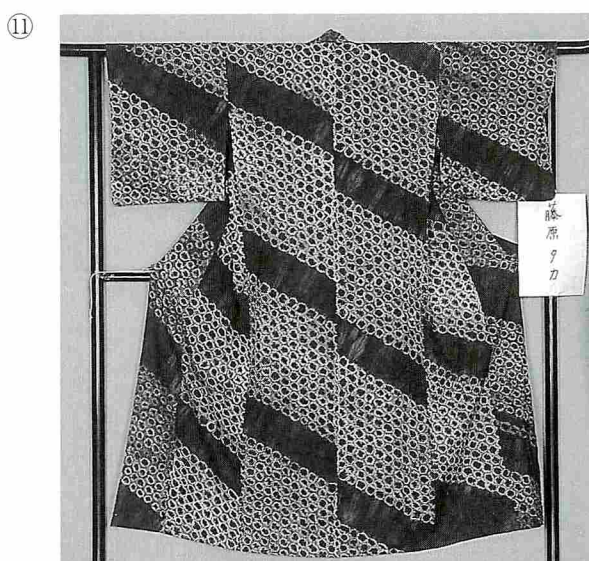
与良久子／井川町



渡辺容子／秋田市



宮田孝子／秋田市



藤原タカ／秋田市

7) 複合的な絞り

さまざまな絞りを複合した意匠の工夫

浅舞絞に見られるような、様々な絞り技術を組み合わせた仕事は、要素となっている1つ1つの技術が出来ただけでは、その模倣すら出来ない。

絞ることが出来るデザインを考え、絞りや染めの手順を考え、失敗を繰り返してひとつの絞りの意匠ができる。ここでは技術復元をめざした模倣の仕事と、新しい意匠をめざした仕事をあわせて紹介する。

●三浦絞りを用いた作例

①波千鳥文様の浴衣

有松・鳴海の意匠を基にして。中野竹子

②流水に花輪文様の浴衣

平川悦子

③市松文様の浴衣地

板締め絞りをあわせたもの。水戸瀬禮子

④蛭文様の浴衣地

佐藤久美子

⑤段変わり文様の浴衣

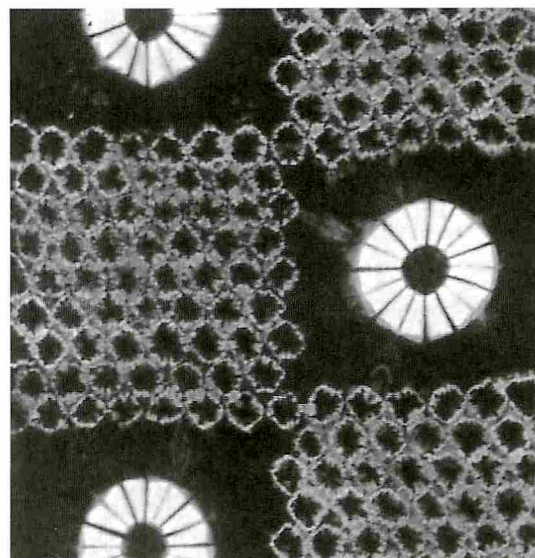
澤井幸子

②



平川悦子／秋田市

③



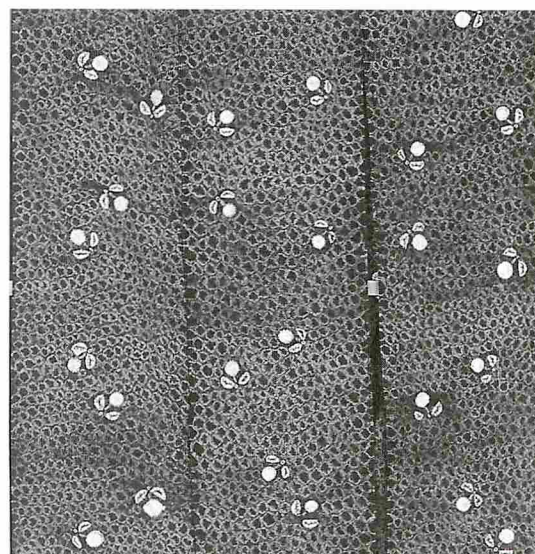
水戸瀬禮子／天王町

①

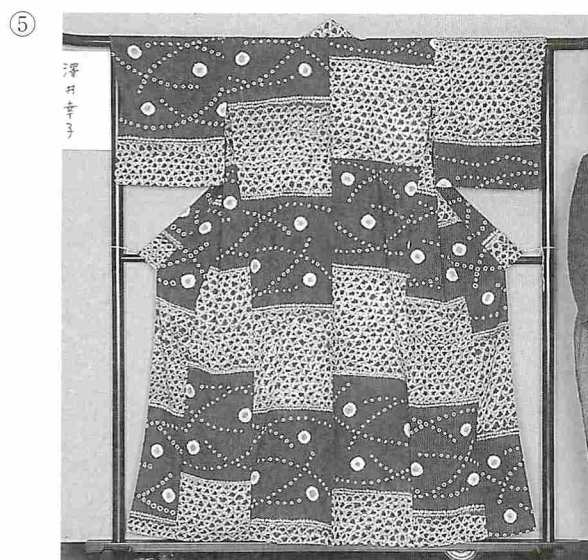


中野竹子／秋田市

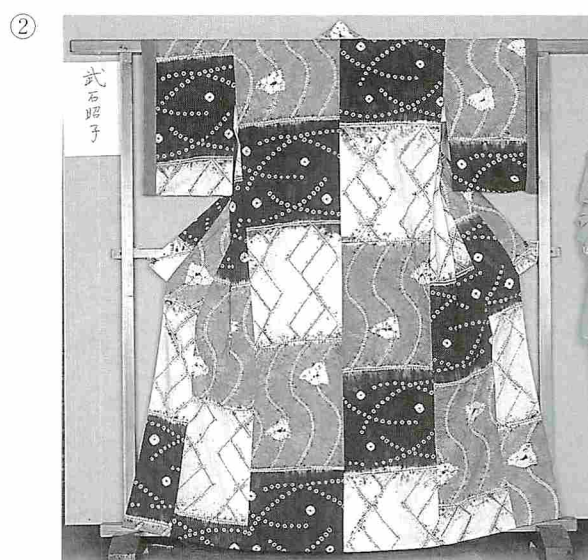
④



佐藤久美子／秋田市



澤井幸子／秋田市



武石昭子／湯沢市

●段模様、市松模様の作例

①濃淡染め分けの段変わり文様の浴衣

淡色部分は途中で防染して濃色を染め重ねた。

澤井幸子

②紺絞りと白陰絞りで段模様にした浴衣

浅舞絞の意匠。武石昭子

③紺白の細かな段模様に、小さな巻き上げ絞りの粒が入った意匠の浴衣

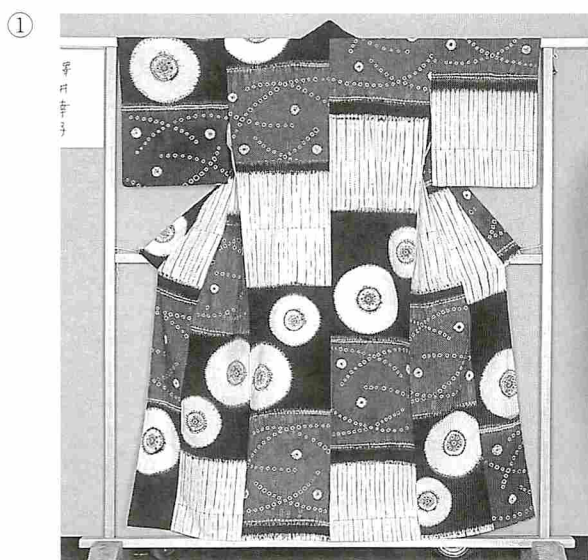
石井吉兵衛

④縫い締め絞りを並べて市松模様にした浴衣

兜森祐子



石井吉兵衛／秋田市



澤井幸子／秋田市



兜森祐子／大館市

●白さを生かした絞りの作例

①蝶文様の白絞りの浴衣／有松・鳴海風

折り縫い絞りをできるだけ隙間無く密に寄せて、その部分だけを染めたもの。白場を汚さぬように防染しておくことが大切である。石井千恵子

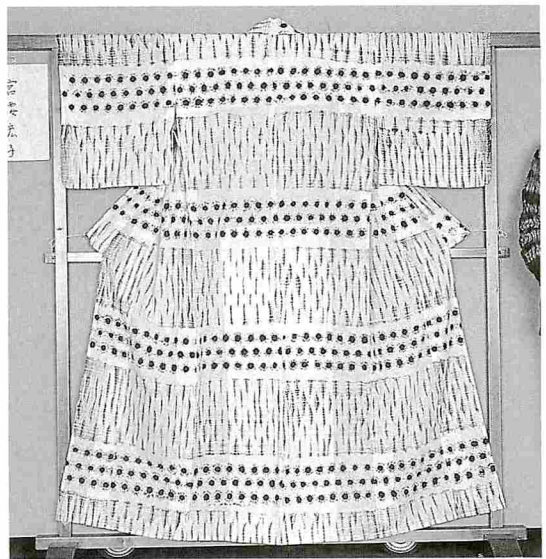
②朝顔文様の浴衣地

絞った部分以外を防染して染めたもの。花の中心部は帽子絞り。最後に花の巻き上げを解いて浅黄を染めた。高橋キサ

③段模様の浴衣

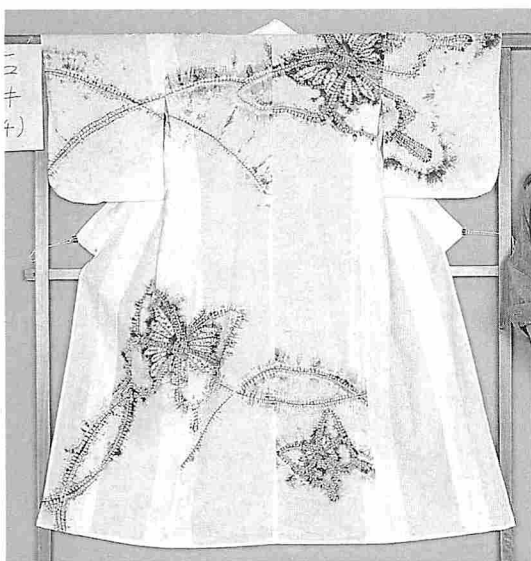
規則的にずらして縫いを入れて引き締め、折り目を交互に出してつくる文様と、日の出絞りの文様を段構成したもの。宮腰宏子

③



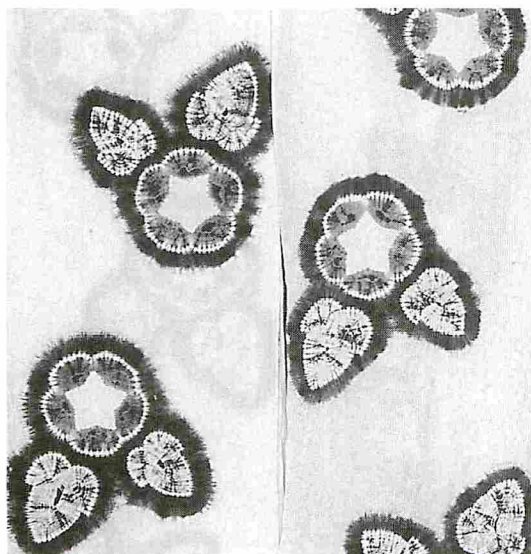
宮腰宏子／能代市

①



石井千恵子／秋田市

②



高橋キサ／千畑町

8) その他のさまざまな意匠

作 例

①太い縦縞の意匠の浴衣

布地の耳と耳を縫い合わせて筒にしたものを、円筒状の芯にかぶせて押し縮めて染めて地模様を作っている。地模様を作った布を30cm程度の幅に折り返ししながら畳んだものを段染めにして、縦の縞模様を作った。伊勢谷史枝

②空目模様の地に雪花を染めた浴衣地

布地を1cm程度の間隔で縫って空目絞を染めて地模様を作っている。地模様をこしらえた布を布幅六分に畳んだものを、正三角形に折り返し畳んで板締めをして、三つの頂点を浅く染めて雪花文様を作っている。布谷保子

③雨に紫陽花模様の浴衣。

雨の線は折り縫い絞り。田口公子

④波千鳥文様の着物／絹地。武田芳子

⑤染め分けの円模様の浴衣。石井吉兵衛

⑥ひまわり文様の浴衣。川村悦子

⑦雨に紫陽花模様の浴衣。今野寿子

⑧空目絞の着物／絹地。伊藤まり子

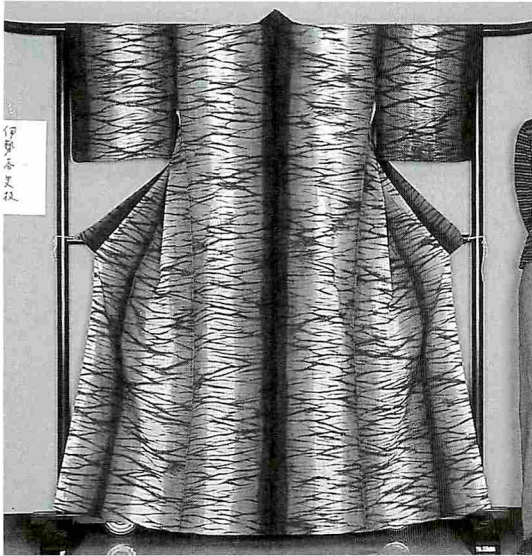
⑨手蜘蛛絞の浴衣地。佐藤久美子

⑩七宝つなぎ文様の浴衣。草皆宏子

⑪板締め抜染による花文様の浴衣。池端アヤ子

⑫板締め抜染による花文様の浴衣。加藤豊子

①



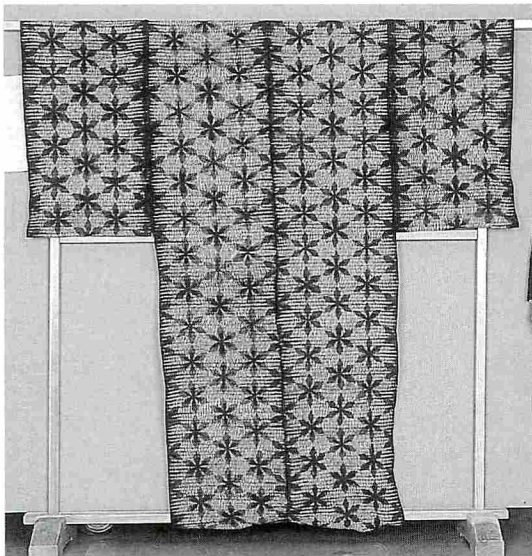
伊勢谷史枝／男鹿市

④



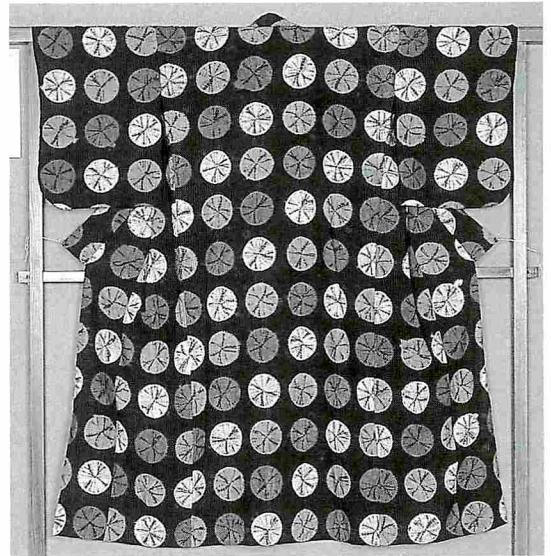
武田芳子／秋田市

②



布谷保子／大館市

⑤



石井吉兵衛／秋田市

③



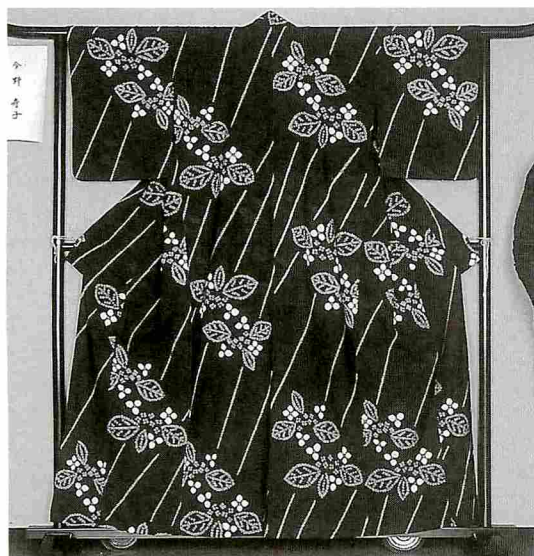
田口公子／秋田市

⑥



川村悦子／山本町

⑦



今野寿子／山本町

⑩



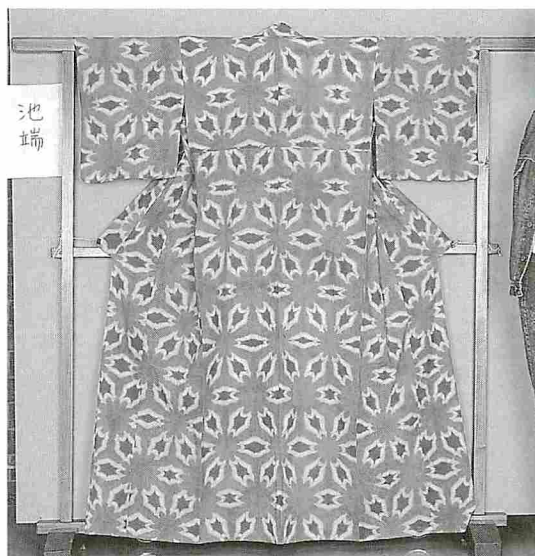
草皆宏子／五城目町

⑧



伊藤まり子／秋田市

⑪



池端アヤ子／西仙北町

⑨



佐藤久美子／秋田市

⑫



加藤豊子／秋田市